

このまちに生まれ
このまちで生きる



はらい敬 敬 HARAI TAKASHI REPORT 市政レポート

2023年8月 発行



Q 4年間を振り返った感想は?

原井 令和元年10月に市長に就任させていただき、その後に年が明けてから世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響が、やはり一番に思い返されます。目には見えない感染症への不安から市民の皆様の健康や暮らしを守るために、感染防止対策の啓発をはじめとして、「おえくぼ券」や「スーパープレミアム付き商品券」などの市民生活・事業者支援策を都度実施したり、市内医療関係者の皆様のご協力によるコロナワクチンの接種体制の構築など、様々な施策を国や県と連動しながら展開していく中で、吉野川市役所を挙げて全力で取り組んでまいりました。コロナ禍の長期化によって先の見通せない状況の中、首長として判断が難しい局面がいくつもありませんでしたが、緊急性を要する予算の執行などにおいて、市議会議員の皆さんから議会としてのご協力を常に見ただけなこととは、各種施策をスピード感を持って行っていく上での大きな推進力になったと思います。

また、市長就任後に本市の財政状況が極めて厳しい状態に陥っていることが分かった時には、正直驚くこともありましたが、市の基金は、家庭で例えると「貯金にあたるものになりますが、これまでと同じペースでこの基金を取り崩しながら予算編成を続けていくと、数年後に基金が枯渇してしまい赤字団体に転落する

という試算結果が出たのです。手遅れとなってしまう前に、令和2年12月にこの現状を市議会や市民の皆様公表し、抜本的な行財政改革に着手することを決めました。その後、市の様々な事業経費や各種補助金が適正なものであるかどうか一から見直し、ふるさと納税やネーミングライツなどあらゆる手段での歳入の確保、基金等の運用益や借入金の上乗償還に至るまで、市役所全体で「予算を使う前に知恵を使う」ことを徹底して取り組んできた結果、今後の試算見直しはかなり改善され、当面の財政危機は突破することができました。

そうしたことに向きに取り組んできた4年間の中で、市民の方々からの声や要望にも真摯に耳を傾けることを怠らないようにしてきました。時々あることですが、市役所に訪れた市民の方が「市長に会わせてほしい」と窓口に来られることがあります。その時に私の予定が空いていれば、お会いしてお話をじっくり伺うようにしています。日常の暮らしの中で困っていることや不安に感じていること、時には行政に対してのお叱りなど、色々な内容のお話を様々な立場の人から直接お聞きし、今後の市政運営の参考にさせていただいています。「市民の役に立つ所」と書いて市役所と読む誤りですが、少しでも気持ちよく帰路についてもらえるよう日々心掛けています。

2023年4月～(令和5年度)

- 国において創設された**出産・子育て応援給付金事業**の継続実施
(妊娠届出時に5万円+出産後に5万円)
- 川島こども園を民間ノウハウを活かした**公私連携型認定こども園**としてスタート
- みんなで取り組む「**ごみ減量**」に向けたプロジェクトを推進
市でペットボトルキャップを回収し、リサイクル業者の買取相当額をワクチンの費用に充て、発展途上国にポリオ等のワクチンを届ける ※自治体では全国初の取り組み
- 未来へつなぐ**修学応援給付金事業**を創設
※藤岡敏孝氏の寄附金原資
- SNS(市公式LINEやインスタグラム等)による**情報発信を強化**

2023.4.2 ヨコタ上校スポーツグラウンドにてFC徳島開幕戦

2023.4.18 広報よしのがわ恒例企画「市長としゃべらん」で対談

国の交付金を活用し、これまで実施してきた市独自の**新型コロナウイルス・物価高騰対策**

- 小中学校に全熱交換器や自動水栓設置
- こども園保育所等に感染症対策機器や消耗品購入支援
- 消防救急隊に感染症対策機器や消耗品購入支援
- 妊婦応援給付金
- コロナに負けるな! こども応援給付金 など

感染予防対策、教育、子育て支援 …… **総額7億円**

- おえくぼ券(3回)
- スーパープレミアム付き商品券(2回)
- 上水道基本料金支援
- 融資利用事業者応援給付金
- つづける農業応援給付金 など

市民生活、事業者支援 **総額14億2000万円**



はらい敬 プロフィール

誕生日: 1979年5月12日
血液型: AB型
趣味: アメリカンフットボール
サッカー・読書
信条: 至誠 努力 実行
家族: 妻・長女・次女

至池田 至阿波町 ●ブックス大谷 阿波麻植大橋 至徳島

R192 山川駅 山瀬駅 至美郷

JR徳島線 阿波川島駅 学駅

後援会事務所

〒779-3407 徳島県吉野川市山川町宮地278-1

TEL 0883-30-5112 FAX 0883-30-5112

後援会事務所(自宅)のご案内

はらい敬 Official Web Site
<http://www.harai-takashi.com/>

HP

Facebook

Instagram

X(Twitter)

2022年4月～2023年3月(令和4年度)

- 徳島中央広域連合消防本部(吉野川市、阿波市)に**日勤救急隊**を導入
(日中の救急車3台→4台に増加
管内での救急体制を抜本的に強化)
- 高齢者等外出支援**タクシー料金**助成事業を開始
- 吉野川市ポケットパークが完成
- 新ごみ処理施設整備に向けた事業用地の造成工事を着工(令和7年完成予定)
- 鴨島駅前中心市街地で**吉野川マルシェ**がスタート
- ボートレーススケッチショップ**阿波かもじま**を誘致
- 市ホームページをリニューアル



2022.4.21 エフエム徳島番組収録



2022.7.23 日本フエニ市民プラザで開催されたインターハイバドミントン競技開会式



2022.8.9 藤岡敏孝氏から次世代を担う子どもたちの育成を目的とした寄附金の贈呈



2022.10.1 ボートレーススケッチショップ阿波かもじまオープンセレモニー



2022.10.21 鴨島大菊人形開幕式



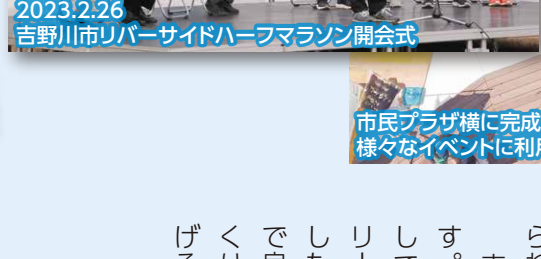
2022.11.14 地元の河川改修を進めるべく国土交通省へ要望活動



2023.9.2 上浦小の児童の皆さんを対象にしたサッカー教室を開催



2023.2.26 吉野川市リバーサイドハーフマラソン開会式



市民プラザ横に完成したポケットパークは様々なイベントに利用可能

し、それらをもめるまちづくりが求められているのではないだろうか。私自身、住民の方々から広く「意見をお聞きしながら、これまでの経験を活かし、先頭に立ってふるさと吉野川市が進むべき道をお示ししていくことが、私に課せられた使命であると考えております。

来月10月には、市制20周年を迎えます。今後、30年、40年と吉野川市が飛躍していくために、その舵取り役を担うリーダーとしての責任をしっかりと自覚した上で、市民の皆様が吉野川市に住んで良かったと実感していただけるまちづくりを進めていくため、全身全霊をささげる覚悟です。

中面からの続き

- 吉野川市民プラザの竣工オープン
- おえっこスポーツクラブの設立
- 防災ハザードマップを作製し、市内全戸に配布
- 財政危機突破を宣言し、抜本的な行財政改革に着手
- 性的少数者のカップルを公的に認証するパートナーシップ宣誓制度を導入
- 吉野川市防災備蓄センターの竣工



吉野川市役所

2019.10.30 初登庁

Q どのようなことを重点的に取り組んできたか？

原井 コロナ禍や財政危機の影響を受けながらも、市民の皆様の暮らしにおける住民満足度や、本市の魅力度向上への取り組みを着実に進めてきた結果、少しずつその成果が現れてきていると考えています。

地域の活性化に関しましては、鴨島駅周辺の都市再生整備計画事業を進め、「吉野川市民プラザのオープン」や「鴨島駅前ロータリーのリニューアル」を核として、「吉野川マルシェ」などの各種イベントが定期的に開催されるようになり、鴨島駅を含む中心市街地に賑わいが戻りつつあります。今後は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行されたことに伴って、「日本フネン市民プラザ（※ネーミングライツ契約により吉野川市民プラザから名称変更）」や美郷にある交流拠点施設「たねのや」などの、更なる利活用が図られるものと期待しています。さらに、本市をホームタウンとする「FC徳島」との連携による地域の活性化につくましても、令和5年度から地域おこし協力隊や本市若手職員がチームの運営企画に新たに参画し、地元への社会貢献活動の取り組みを更に加速させており、交流人口の増加や賑わいの創出に繋がっていくものと考えています。住民福祉の向上及び教育の振興に関しては、「子どもはぐくみ医療費助成」

地域おこし協力隊を積極的に採用
令和元年度0名
令和5年現在9名の隊員が活動中

ふるさと納税制度の取組強化
令和元年度3,496万円
令和4年度7,021万円

市長給与15%カット
(4年間継続中)



2020.2.14 独立行政法人国立病院機構へ徳島病院の存続について要望



2020.3.26 吉野川市民プラザ落成式



2020.7.30 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底について地元ケーブルテレビによる市長メッセージ収録



2020.11.14 令和元年度大嘗祭鹿服製織記念碑除幕式



2021.1.18 阿部和剛氏へ市広報サポーター就任の委嘱状交付



2021.3.29 FC徳島との地域貢献に関する連携協定を締結

を高校卒業までの18歳に対象年齢を拡大し、小学校では県内初となる空調設備を備えた「山瀬小学校屋内運動場の竣工」、国のGIGAスクール構想における1人1台タブレットの導入に同調した「学校施設におけるインターネット環境の改善やICT支援員の配置」などにより、子育て・教育環境の充実を図ったほか、「高齢者等外出支援タクシー料金助成事業」や「住民票等コンビニ交付サービス」の導入など、暮らし・福祉の充実を進めて参りました。

また、安心・安全なまちづくりに関しましては、山川町での「吉野川市防災備蓄センターの整備」や、台風接近時に農業用ため池を事前放流して洪水調節する「飯尾川流域治水プロジェクトの推進」に加え、民間事業者等と災害時における人的・物的な応援、避難所施設の利用などに関する協定を積極的に締結し、地域の生活基盤の向上及び市民の皆様への安心・安全を図ってきたところです。

さらに、市民の皆様への情報発信にも力を入れてきました。ケーブルテレビ番組に私自身が積極的に出演して市の広報を行ったり、「市長としゃべらん」で題した広報誌の企画において地域で活躍する方々との対談や、SNS（市公式LINEやインスタグラム等）での発信の強化など、様々な媒体を使って市の取り組みがもっと身近に感じられるよう努めてきました。

- 国のGIGAスクール構想における1人1台タブレットを導入・運用
- 子育て世代包括支援センターを設置・運営
- 中山間地域交流拠点施設「たねのや」オープン
- FC徳島ホームタウンの推進
- 農業用ため池の洪水調節対策等による飯尾川流域治水プロジェクトを推進
- 子どもはぐくみ医療費助成を高校生まで対象拡大
- 住民票等コンビニ交付サービスを導入
- 鴨島駅前ロータリーをリニューアル
- 山瀬小学校屋内運動場の竣工



2021.4.8 ケーブルテレビ番組「おえっこいよしのがわ」定期収録



2021.6.14 市長定例記者会見



2021.7.9 吉野川市の観光振興を担うKittamu設立メンバーによる市長表敬訪問



2021.11.5 リーゼント刑事こと秋山博康氏へ市ふるさと大使就任の委嘱状交付



2022.1.28 市施設のネーミングライツ契約調印式



地域の防災拠点として空調設備も備えた山瀬小学校屋内運動場



旧種野小学校を改装し宿泊もできる交流拠点施設たねのや



2022.2.22 鴨島ロータリークラブからの鴨島駅観光マップ看板寄贈除幕式

Q 今後の抱負は？

原井 今（令和5年8月現在）は、長期化している物価の高騰によって市民生活への影響が出ていますので、国の交付金を活用した支援策として、一人あたり5,000円の「おえっくぽん券（第3弾）」を市民の皆様全員に配布し、生活者と事業者双方の支援と市内経済の活性化を図っていきます。

また、国が進める「子どもまんか社会」の実現に向けた子育て支援のさらなる推進、私自身が積極的に出向く市長トップセールスによる吉野川市のPR活動、令和7年8月に稼働予定の「新ごみ処理施設」の安定的な運営など、将来の吉野川市のあるべき姿を見据えた新たな公約を現在取り纏めているところです。

今、私たちを取り巻く社会はAIを中心とするICTの進化や、グローバル化した社会経済情勢の変動等により、かつてないスピードで大きく変化している時代です。そして、人口減少や少子高齢化はこれから益々加速し、地方にとっては厳しい時代となってきました。将来の予測が難しい時代に、そこに住み暮らす住民の方々がこれまで以上にやりがいをもって、生き生きと暮らしていけるようになるにはどうすれば良いのか、全国各地の地方が直面している大きな課題です。おそらくそこには、画一的なものの形成よりも地域の特性や持続可能性を重視